

主 題：あなたはキリストに会う準備ができていますか
 聖書箇所；コリント人への手紙第一 15章51～58節

近藤牧師からステイブ・ローソン博士の紹介：先生はアラバマ州モービルにあるクライスト・フェローシップ・バプテスト教会の牧師です。毎春、ロサンゼルススのグレイス・コミュニティ教会でもたれる「牧師カンファレンス」で、メインゲストとしてみことばを取り次いでくださっています。今年、先生と直接お話する機会があり、思ってもいなかったことですが、こうして浜寺に来ていただくことができました。先生は恐らく、どこの国のどこの教会でもお招きしたいとしている先生方の中のお一人です。私たちは主のみわざを感謝し期待しながらこの時間を迎えたいと思います。

メッセージ：初めに、今日こうして皆さんといっしょにしていることができることは私にとって誇りであり、また、特権だと思っています。この機会を期待してしばらくの間思い続けて来ました。神が私をここに導いてくださったのは特別な目的があると確信しています。そして、私たちが今日ここにいるということは、何らかの方法で神が導いてくださっていると確信を持っています。神は私たちの足を一步一步導いてここに置いてくださっているのです。ですから、神が私たちに願っておられるすべてのことをしっかりと掴み取ることができるようにと願っています。メッセージを進める前に、私は皆さんの牧師先生を誉めたいと思います。私たちが知っていることは、この神の王国の中にあってもすばらしい牧師のひとりであるということです。彼は神のみことばを取り次ぐすばらしい賜物を受けた人物です。そして、私にとってこの講壇に立ってメッセージを取り次ぐことができることはすばらしいことだと思っています。ここからみことばが本当に注意深く語られているから、そして、イエス・キリストがここで崇められているから、ここに立つことができるその招待をしてくださったことを本当に感謝しています。

どうぞ、コリント人への手紙第一をお開きください。今日のメッセージのタイトルは「最後の世代」です。皆さんにキリストの再臨についてお話ししたいと思います。そして、皆さんにキリストがやってくることに準備ができるようにしていただきたい、これ以上にすばらしい箇所はないと思います。耳ある者は聞くべきです！

「15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。:52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。:53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。:54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」としるされている、みことばが実現します。:55 「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。:57 しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」

イエスが再びやってくる時に、最後の世代の人たちがここに生きて存在しているのです。そこには死を経験することがない最後の世代のクリスチャンの人たちがいるのです。ある日突然、私たちが予期しないときに、キリストは空の上に現われます。そして、イエスはその花嫁である教会のためにやって来て、その花嫁を天に連れて行くのです。そして、主ご自身が天からやって来られて、叫び声とともに降りて来られるのです。そして、天使長の声が聞こえます。そして、神のラッパが鳴り響きます。そして、教会は天へと取り上げられて空へと上がって行くのです。このときに生きているクリスチャンの世代は、一度も死を経験することはありません。彼らは決してその鉄の刃のような死を経験することがないのです。この最後の世代のクリスチャンたちというのはまるでエノクのような存在です。彼は主とともに歩いていて、ある日突然、主によって天に上げられたのです。この最後の世代のクリスチャンたちというのは預言者エリヤのようなものです。エリヤは神によって燃える馬車に乗って天に上げられて行ったのです。それが私たちにも起こるのです。

キリストはいつ来てもおかしくないのです。神、イエスは、今日来てもおかしくありません。そして、イエスが今日やって来られるときに私たちは天へと上げられるのです。キリストが最初にやって来たときからずっと、このことはすべてのクリスチャンの希望なのです、過去2000年間にあるすべてのクリスチャンの希望であり続けるのです。キリストがやってくるというその予期のもとにそれらの人たちは生き続けて来ました。そして、彼らは自分の生涯のうちにキリストがやってくると思ったのです。パウロもそのように感じていました。パウロ自身もキリストがやってくる時に私はまだ生きていますと思

ったのです。パウロも自分自身がクリスチャンの最後の世代に存在する者であると考えていたのです。このことを51節に見ることができます。ここで彼は「**私たちは**」と言って自分自身を最後の世代に入れたのです。彼は、私たちは眠っているのではなくて私たちはすぐに変えられると言うのです。そして、52節でもまた言います、「**私たちは変えられるのです**」と。彼は私も最後の世代に含まれていると言っているのです。イエスがやって来るときに彼も生きているのだと。この2000年後の今、私たちはもっとそのように思っていなければいけないのです。毎日のあらゆる瞬間を私たちはその期待のもとに生きていなければいけないのです。今日、皆さんにキリストの再臨の日のために生きていただきたいと思えます。皆さんにキリストの再臨を予想して、今かと今かとその再臨を待ち望んでほしいのです。テトス2:13は私たちがこのすばらしい望みを待ち望んでいるべきだと言います。「**祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです**」、そして、私たちの偉大な栄光に満ちたイエス・キリストの再び現れる日を待ち望むべきだと言います。

1ペテロ1:13は「**ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい**。」、皆さんの心を引き締めて、キリストの現われの時のために、しっかりとそこに目を向けているようにと言っています。皆さんはどうぞこの最後のトランペットの鳴り響くことを待ち望んでいただきたいのです。皆さんに知っていただきたいことは、最高のものはまだ来ていないということです。神が私たちのために備えてくださっているものだから。私たちがこのみことばを見て行くときに、ここに三つの主要となる事柄があります。

1. 51節 奥義を告げましょう
2. 52-57節 やって来るその瞬間の説明
3. 58節 私たちの働きが堅固なものにされる

☆最後の世代

1. 奥義が告げられる 51節

パウロはここで「**聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう**。」と言います。この「聞きなさい」ということばは「注意を向けなさい」ということです。これはまるでイエスが「まことに、まことにあなたがたに告げます」と言うのと同じです。パウロがここから言うことはすべて重要なことだったので。けれども、ある事柄はそれ以上に非常に重要なことだったので。この「聞きなさい」ということばはパウロがこれは非常に重要だと言っているのです。「私は奥義を告げる」と、パウロはカーテンを取り除いているのです。そして、以前は隠されていたものが何なのか明らかにしているのです。この「奥義」ということば、このことばは以前隠されていた「真理」のことです。けれども、今、新約聖書の中にあって明らかにされたものです。この「真理」は今まで隠されて来たものです。けれども、私たちに對して今、新約聖書の中で明らかにされているのです。これは、何と驚くべき宣言なのでしょう。神が以前は隠されたものを私たちに示してくださっているのです。これは神がキリストの再臨に関して隠しておられた真理を私たちに明らかにされているのです。新約聖書の中には幾つかのこのような奥義というのがあります。それが私たちに今明らかにされているのです。例えば、ローマ人への手紙11:25「**兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、**」と、これはイスラエル人の心がかたくなにされる、異邦人のときが満ちる、そのときまでかたくなにされるということです。また、エペソ人への手紙3:4-6「**それを讀めば、私がキリストの奥義をどう理解しているかがよくわかるはずですが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。:6 その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです**。」、ここでは教会の中における異邦人とユダヤ人の一致ということです。コロサイ人への手紙1:27では「**神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです**。」、これは私たちクリスチャンの中にキリストがいてくださる栄光の望みのことです。旧約聖書の時代、このようなことは全く信徒には思いもつかなかったことです。メシヤが信徒のうちに事実住んでくださるなんて…。けれども、新約の時代になってその真理は明らかにされたのです。

新約聖書の中にはまだ他の奥義があります。けれども、ここに記されている奥義はその中でもすばらしい奥義の一つです。教会が空中に携挙されるその真理です、そして、クリスチャンの世代が死を味わうことがない、その世代があるという、その奥義を51節で説明し始めるのです。これが奥義です。「私

私たちはみな眠ってしまうのではなく、この「私たち」というのは信徒すべてを表わします。彼がこのように言うとき、「私たちは死なない」と言っているのです。つまり、クリスチャンの中には死を見ない世代があるということです。「眠ってしまう」、この「眠る」というのは新約聖書の中では「死」ということばに置き換えることができることばの一つです。クリスチャンが死ぬ時にその人のたましいはすぐに神のもとに行きます。パウロは、肉体から離れたなら、それは神の目の前にいるということであると云います。私たちのたましいは眠ることはありません。神の目の前にあって私たちのたましいは今まで以上に起きています。けれども、私たちのからだが入られたときに、そこにはただ横たわってまるで眠っているかのように見えるのです。そして、これが寝ているように見えるということ、また、寝ているというのは、いつの日か必ず起きるということを行っているのです。そして、そのときにすばらしい復活が起こるのです。この「眠る」ということばは信徒が「死んだ」状態を表わします。ヨハネ 11章にラザロが死んだことが記されていますが、その時、イエスは「わたしたちの友ラザロは眠っています。」と言われました。つまり、彼のからだは終わりの日によみがえることを言っているのです。使徒の働き 7章でステパノが石打されて死んだとき、ルカはそこで彼は「眠りについた」と記しています。Iコリント 15章の最初の部分 6節でも、「すでに眠った者もいくらかいます。」とあります。つまり、キリストが再びやって来られる前に、彼らはすでに死んでしまったということを表わしています。ですから、パウロが「私たちはみな眠ってしまうのではなく、」と言ったときに、それはある人たちは死を経験しない、この「死」という経験を通らずに過ごすことができる人たちがいるということです。なぜなら、私たちはキリストと空中において会うことができるからです。

そして、私たちに 51節の最後で、私たちがキリストがやって来られるときに生きていとするなら、私たちは「みな変えられる」と言います。それは大きな変革です。その瞬間に私たちのからだは大きく変わるのです。そして、私たちのたましいも変えられるのです。私たちは罪の性質が全くない者となり、そして、私たちは栄光を受けるのです。イエス・キリストのようなものに私たちは変えられるのです。私はそれがどのように変えられるかという詳細は知りません。けれども、私たちがキリストに似た者に変えられるということは私にとって十分です。私の救い主のように変えられる、それは何とすばらしいことでしょう。ですから、これが私たちに告げられた奥義だったのです。キリストが再びやって来られるときに、世界中のすべてのクリスチャンたちは、そのときに生きていとするなら完全に変えられるのです。そして、変化を受けて主に似た者となるがゆえに、私たちはこのキリストがやって来るという期待のもとに生き続けなければいけないのです。神の計画の中にあつて神が遅れてやって来ることはありません。私たちは今まで一度もこれほどキリストの再臨に近づいた時代はないのです。世の終わりは今やって来ています。ですから、キリストはもうすぐ私たちのためにやって来られます。そして、私たちを神のもとへと連れて帰ってくださるのです。何とすばらしい日でしょう、その日は！その日のためにどうぞ準備しようではありませんか！ この朝、今、この瞬間にも！

2. やって来るその瞬間の説明 52-57節

パウロはここでその栄光に満ちたすばらしいときを説明します。52節「たちまち、一瞬のうちにです。」とあります。この「一瞬のうちに」ということばはギリシャ語の「アトモス」ということばが使われています。これは最も小さな基準、小さく切っていった、その一番小さな基準を表わすものです。何かを計るときに最も小さな単位です。そして、この箇所の中で言われていることは、この時間の中にあつて、最も小さな単位の時間であると言うのです。この瞬間は、ほんのわずかな、何秒にも満たない時間、ミリ秒です。それが余りにも素早く起こるが故に、これ以上細かい時間に区切ることができない程、一瞬のうちに起こるのです。ですから、キリストがやって来られるとき、私たちは他のことをする時間が全くないのです。何かを準備する時間もないのです。だれかに伝道する機会もないのです。神に与えるべきものを今から与えようとする時間もないのです、それは一瞬のうちに起こります。ですから、私たちはそのための準備ができた状態で生きていなければいけないのです。それがいったいどのように起こるのか、具体的な例が挙げられています。ここでは「たちまち」と日本語に訳されていますが、これは瞬きをするという意味です。私たちに人間にとっては目が一番速く動くものです。これは一瞬のうちに起こるのです。私たちがぱちっと目を閉じるその瞬間に、雷がとどろくように、余りにも早いスピードです。だれかと話しているとしましょう、すると、次の瞬間にはキリストの前に立っているのです。皆さんはどこかで買い物をしているかもしれないし、職場にいるかもしれませんが、突然、あなたは神の前に立っているのです。皆さんは子どもの世話をしているかもしれませんが、でも、瞬きするその瞬間に私たちの主に空のうちにあって会うのです。そして、イエスはあなたを天の家へと連れて帰ってくださるのです。

このことが「終わりのラッパとともに」起こるのだと言います。聖書はキリストがやって来ることをラッ

パの音とともに知らせると言っています。ラッパというのは、軍隊や政治の公式の場で使われるような楽器です。旧約聖書の中にはときどきラッパが鳴り響くようすが記されています。そのときに神がそこにやって来ることを知らせるためにラッパが鳴り響くのです。また、神の民が勝利を治めたときにこのラッパが鳴り響きます。シナイ山の麓で、モーセが人々を導いていたときに、約束の地へと移動するときに、人々の前にラッパの音が鳴り響いたのです。これらのすべてはラッパの音が鳴り響くことによってそこに告げられていたのです。神の御子が空に現われること、そして、神の民にとってすばらしい勝利がそこに起こること、そして、約束の地へとクリスチャンたちが進んで行くそのことを、この世を去って天に向かって行くその日を。ですから、パウロはラッパが鳴ると言うのです。このことをパウロは I テサロニケ 4 : 16 でも言います。「**主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、**」、主は号令とともにやって来ると言います。ここでご自身が天から下って来ると言います。私が好きなのはこの「**ご自身**」ということばです。キリストご自身がやって来てくださるのです。単に天使たちだけではないのです。彼は旧約の預言者を私たちのために遣わすのではないのです。でも、キリストは私たちを余りにも愛しているが故に、ご自身、私たちのためにやって来てくださるのです。そして、天から下って来られて、そこには叫びがあります。キリストご自身が私たちのために叫んでくださるのです。そして、キリストの羊たちは皆その羊飼いの声を聞き分けるのです。それが私たちの主の声だと私たちは聞くのです。そして、天使長の声がします。私たちを呼んで、そのときに天にラッパが鳴り響くのです。そして、主のうちにあって死んだ者たちが先によみがえります。この死んだ者たちというのは、すでに亡くなっているクリスチャンたちのことです。彼らのからだがよみがえり、17節には「**次に、生き残っている私たちが、**」とこれは最後の世代のことです。「**たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、**」、全世界のクリスチャンたちが、日本にいる信者たちが、アメリカにいる信者たちとともに、どこに住んでいる信者たちでもその人たちはともに、イエスに空の上で会うのです。そして、「**空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。**」。イエスご自身がこのことをヨハネの福音書 14 : 2 で言いました。弟子たちの心をなごませるために、彼らの生涯の前には非常な困難がそこにあるのを知っていた故に、先のことを告げて彼らを励まそうとしたのです。この地上での時間が短いときであることを思い起こさせようと、そして、彼らの前にはすばらしい永遠が待っているということ、そして、ご自身が彼の弟子たちのために帰って来ることを。「**わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。**」、ここで言われているのは非常に大きな家です。そこで私たちは皆、神の家族として、近い存在として住むのです。「**もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。**」とイエスは言います。「**あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。**」、3節「**わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、**」、皆さんここで気付いてください。天国というのは現実の場所なのです。大阪よりももっと現実的な場所なのです。ここは神が実際に住まわられていて、イエスがおられて、天使たちが存在する現実の場所なのです。そこにあなたのために場所を備えると言われます。もしキリストが私たちのために場所を備えてくださるなら、それは何とすばらしいことでしょうか。そして、言います。「**また来て、**」、最初にイエスが来られたのと同じように、イエスは再び必ずやって来られるのです。そして、「**あなたがたをわたしのもとに迎えます。**」、これが私たちが空中において神の前に挙げられるその姿です。「**わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。**」、これが私たちにとって天国の最もすばらしい部分です。これは黄金の道がすばらしいのではないのです、真珠の門がすばらしいのではないのです。そのすばらしさは私たちがキリストとともにいることができるということです。私たちはキリストを見るのです。顔と顔を合わせて彼を見ることができると言えます。そして、彼を崇めることができるのです。私たちが交わりを持ち、愛と献身をもって神に仕えるのです。

だから、私たちはキリストの再臨を求めるのです。なぜなら、私たちは信仰によってキリストを愛しているからです。けれども、その日、私たちはキリストを見て愛するのです。そして、私たちは彼の釘にさされたその跡を見ます。私たちのために十字架で死んでくださったことに驚きを覚えるのです。私はキリストが再びやって来られる日を待ち望みます。なぜなら、私はキリストと永遠とともにいたいからです。これがラッパの音が鳴り響くときに私たちに待っているものです。このラッパは私たちが予期しないときに鳴ります。そして、突然、大きな音で、非常に劇的な形で、そのときに死んだ者たちは朽ちることのないからだをもってよみがえるのです。一瞬のうちにです。イエスはヨハネ 5 : 28 で「**このことに驚いてはなりません。**」と言いました。たとえ、これがどれ程奇跡的で信じられないことであっても、驚いてはいけなないとイエスは言うのです。ときがやって来る、神がみこころの故に、その主権の故に、定めたときがやって来る、そのときは今すぐにやって来るのです。そのときに「**墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。**」、そして、59節「**善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、**」、

全世界のあらゆるところで墓が開きます。そして、信徒のからだはそこからよみがえって来ます。そして、朽ちることのないからだをもって、二度と死ぬことのない状態で天に上げられるのです。私は何度も墓での礼拝を持ちました。棺が土の中に埋められて行くのを見ました。そこには未信者たちが立っています。そして、そのとき私は喜びをもって告げるのです。「このからだを棺に入れて土に埋めることというのはほんの一瞬の出来事なのです。なぜなら、私たちの救い主、主イエス・キリストはやって来られるからです。そして、このからだのためにイエスがやって来てくださる、そして、この墓は開いてこのからだは朽ちないからだへと変えられる、このからだは二度と死ぬことのないからだとなる、これが私たちの前にあるすばらしい希望です。そのとき、私たちは愛するすでに亡くなった人たちともう一度いっしょになるのです、私たちは彼らとともにいることができるのです。」と。Iコリント15：52の最後で「**私たちは変えられるのです。**」と、このことは、私たち最後に生きている世代のクリスチャンのことです。私たちはイエス・キリストの似姿へと変えられるのです。

Iヨハネ3：2は、キリストが現われるときに、私たちはキリストに似た者に変えられる、なぜなら、そのときに私たちはキリストのありのままの姿を見るからとあります。「**愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。**」。この一瞬のときに、この瞬間に、聖化という私たちが進んでいるものは栄化に変わるのです。私たちのうちによい働きを始められた方はとピリピ1：6にあるように、神が始められたものを完成されるのです。「**あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日に来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。**」。だから、53節で「**朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、**」と、これはキリストにあって死んだ者たちのことを指します。墓の中にあつて朽ち果てて行くこのからだのことを表わしています。それが「**朽ちないものを**」身につけると言います。この「着る」ということばは服を着るということばが使われています。彼らは自分たちでそれを着るのではないのです、これは受け身の形です。キリストによって彼らは服を着せてもらえるのです。復活のからだというすばらしいからだを。もう二度と朽ちることのないものへと。「**死ぬものは、**」、ここで言っているのは、キリストがやって来られるときに生きている人たちのことです。彼らは「**必ず不死を着なければならないからです。**」と、この「**不死**」ということばは、決して死ぬことがなく、決して朽ちることがないということです。この瞬間にこれらすべてのことが起こるのです。

ピリピ3：21、キリストがやって来られるときに、「**…私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。**」、キリストが変えてくださるのです。私たちが年をとればとる程、私たちのからだはより卑しいからだへと変わって行きます。私たちは年をとり、そして、弱くなって行きます。私たちのからだはこの状態のままに居続けることはできません。けれども、キリストがやって来られるときに、キリストはこの卑しいからだを変えてくださるのです。イエス・キリストの栄光のからだと同じものへと変えてくださるのです。神の力を示されるによって、万物をご自身に従わせることができるそのすばらしい力によって。何とすばらしい、超自然的な神しか持つことができない力の現われでしょう。私は、どうしてある人たちが聖書に書かれてある奇跡を信じることができないのか分かりません。彼らはイエスが水をぶどう酒に変えたその事実につまずくのです。また、彼らは大祭司しもべの耳をとってその耳をくっつけたことに驚くのです。しかし、この神が為してくださることに比べればこのようなことは小さなことに過ぎません。あらゆるクリスチャンたちが、その同じ一つの瞬間に皆が天に挙げられて、皆のからだを変えられて、皆のたましいが変えられて、そして、すべての墓が開いて、すべてのクリスチャンのからだがよみがえって来るのです。何とすばらしい奇跡でしょう。なんとすばらしい神を私たちは持っているのでしょうか。何とすばらしい救い主を得ているのでしょうか。このすばらしいからだで私たちは天においてあらゆることができるのです。今、私たちは神のために多くのことをしたいと思っているかもしれませんが、私たちのからだには限りがあります。私が飛行機でここに来たとしても、私のからだは疲れきっています。だから、私の心にあるすべてのことを為すことはできません。私の心では、いつも毎日、毎時間、メッセージを語り続けたいと思います。けれども、私のからだは卑しい状態なのです。私のたましいは願っているけれど、私のからだは弱々しいのです。けれども、私たちが天に行くとき、私たちは最後にやっと限界のないからだをもつことができるのです。そして、私たちの心の中にあるあらゆることをすることができるようになるのです。私たちは毎日、神をずっと崇め続けることができるのです。そこで私たちは毎日ずっと神に仕え続けることができるのです。私たちはお互いにすばらしい交わりを毎日もち続けることができるのです。そこで神のすべての被造物を見ることができ、全世界を見ることができ、

皆さん覚えていますか？イエスが復活されたその日、その晩、弟子たちは二階の部屋に集って、イエ

スの復活のからだを見ました。そのとき、イエスは壁を通り越して突然現われたのです。また、二人の弟子たちがエマオに向かっていたその途上で、突然イエスがそこに現われたのです。イエスの復活のからだには限界はありませんでした。私たちが天に行ったときのことを考えてください。私たちには超自然的なからだを与えられているのです。決して疲れることなく決してたゆむことのないからだ、そして、私たちの心は聖さのうちにある完全なものになるのです。そして、私たちの心の中でやりたいと願っていることを私たちはすることができるからだを遂にもつことができるのです。その日は何とすばらしい日でしょう。

15:54「しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのみまされた。」とするされている、みことばが実現します。」、これはもうすでに死んでいる者も、そして、そのときに生きている者も含んでいます。記されているみことばが実現するというのです。その瞬間にこの成就が起こるのです。パウロはここでイザヤ書25:8を引用します。「永久に死を滅ぼされる。」→「死は勝利にのみまされた。」この勝利はイエス・キリストの勝利です。今この瞬間、もしかすると死が勝利を治めているかのように見えるかもしれませんが。まるで信徒たちが死によって打ちのめされているかのように見えるかもしれませんが。信徒たちは死に、そのからだは墓に入れられるのです、まるで死が勝利者のように見えるかもしれませんが。信徒たちが敗れているかもしれませんが。でもそのとき、それらはすべてが逆転するのです。この瞬きにも満たない一瞬に、すべての状況の中であって、死は完全な敗北を帰するのです。そして、私たちのからだは偉大な勝利を経験するのです。死はキリストの勝利にのみこまれるのです。

そして、55節、パウロはホセヤ書13:18を引用します。「わたしはよみの力から、彼らを解き放ち、彼らを死から贖おう。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。よみよ。おまえの針はどこにあるのか。あわれみはわたしの目から隠されている。」→「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」、ここでパウロは死を嘲っているのです。死をからかっているのです。死は余りにも圧倒的な形でキリストが再びやって来られるときに敗北を帰するから。墓はキリストにあって死んだ者たちを出して行きます。そして、そのとき生きているクリスチャンたちは一度も死を経験することなく過ごすのです。その瞬間に、人間の最大の敵であった死は圧倒的な形で敗れ、私たちはイエス・キリストのうちに勝利者となるのです。彼の勝利は私たちの勝利となります。その日に、主の栄冠は私たちの栄冠となります。

56節「死のとげは罪であり、」、この「とげ」はキリストによって取り除かれ、墓の中で奪い取られます。そして、私たちの「罪の力は律法です。」と言います。なぜなら、この律法が罪がどのようなものを具体的に表わすからです。この律法が罪の力を出すからです。なぜなら、律法によって私たちが比べられるときに、私たちは皆罪を犯し神の栄光に満たないからです。そして、罪の報いは死なのです。それゆえに、罪を犯すたましいは間違いなく死を経験するのです。ですから、このような意味において罪の力というのは律法なのです。けれども、57節でキリストが最後にひとこと、きちんと言ってくれると言います。罪が満ちあふれたときに神の恵みはもっと豊かに溢れていると言います。罪がキリストの死によって敗れたことよりも、キリストのその勝利はそれよりはるかにすばらしい勝利だと言います。

57節では「しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。」、これは罪に対する、死に対するあらゆる分野における完全な勝利なのです。部分的な勝利ではなくて完全な勝利なのです。この勝利というのは、(1) 私たちが救われたその瞬間から起こったものです。そして、義の教理のゆえに、私たちが新しく生まれたその瞬間から、私たちは新しい者に変えられたのです。義なる者とされ、そして、罪のその罰から私たちは勝利したのです。キリストのうちにいる者に対してもうすでにのろいはないのです。(2) 私たちのそのクリスチャンとしての人生すべてにおける勝利でもあります。私たちの聖化の中には勝利があるのです。神は私たちの人生にある罪の力に勝利する力を備えてくださっているのです。ですから、私たちは今徐々にキリストの似姿になるように変えられ続けているのです。けれども、それらすべては十分ではありません。最終的な勝利の形というのが私たちの前にまだあるのです。(3) それは完全な勝利です。キリストがやって来るそのときに。私たちのその栄光が私たちに与えられるその瞬間がやって来るのです。そして、その瞬間、私たちは完全に罪の臨在から解かれるのです。そのときに私たちのうちにはもう罪が完全になくなってしまうのです。ですから、キリストがやって来られるときに、そこにはキリストの勝利の完成を見ることができるのです。これらすべてのことがこの瞬間に起こるのです。これがここでパウロが告げていることです。

3. 私たちの働きが堅固とされる 58節

58節「ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。」、ここでは私たちの働きが励まされている姿が記されています。このようにキリストがやって来ることを考えるなら、このよ

うな勝利があることを知るなら、私たちの毎日の生活はどのような影響を受けなければならないでしょうか？ 58節は聖書の中でもすばらしいみことばのひとつであると思います。新約聖書の中に見ることができる偉大な教えの多くは、キリストが再びやって来るその再臨の教えの直後に出て来ます。これがそのうちのひとつです。「**ですから、私の愛する兄弟たちよ。**」、この「**ですから**」ということばは、これまで語ってきたことを含みます。このように奥義が告げられた訳ですから、このようにこの瞬間が説明された訳だから「**私の愛する兄弟たちよ。**」と、そして、彼はこの信徒たちに対して暖かい心で、まるで手を回りに囲んで自分の元にひき寄せるかのように、そして、パウロは皆さんに対してもこの手を差し伸べるのです。皆さんを自分の元に真理の元に引き寄せようとしているのです。「**私の愛する兄弟たちよ。**」、皆さん見てください。「**堅く立ちなさい**」と、皆さんがキリストに仕えているその働きを止めてはいけな
いと言います。「**堅く立つ**」というのは、忍耐をもって我慢してしっかりとやり続けることです。このことばがもっている意味は、座っているという意味です。神が置かれているその場所にしっかりと根ざしているということです。礎を下ろして、神のみことばのうちにしっかりと根ざしていることをいっています。私たちは堅く立っていなければなりません。クリスチャンの生涯というのはマラソンです、それは50メートル走が何度も続くものではありません。私たちはキリストが再びやって来るまで、堅く立って走り続けなければならないのです。そして、パウロは「**動かされること**」がないようにしなさいと言います。神が置かれたところから動くなと言うのです。あなたが置かれているその働きから逃げ出してはいけ
ない、間違った教理によって動かされてはいけ
ない、海の波のように行ったり来たりする
ようなものであってはいけ
ないと言
うのです。キリストの再臨の真理は私たちが動くことのない者になりなさいと言
います。キリストが再びやって来る
ときに、皆さんは聖化の中にしっかりと根ざしている者であ
ってほしいのです。神の前に動くことのないように。神の働きをするにあたって動かされることのない者として。

そして、その次に言うことは「**いつも主のわざに励みなさい。**」、私はこのことばを心から愛しています。この「**いつも**」ということばは、継続的にずっとという
意味です。「**励みなさい**」とい
われているその意味は、与えられているその条件よりもさらに上のことをやれという
意味があります。今、この時代は神の働きにおいて一歩下がっている時代ではないのです。この時代は私
たちは神のためにもっとしていなければ
ならないのです。なぜなら、キリストはもうすぐやって来られるから
です。私たちが今までやって来た以上
にやらないといけ
ないのです。私たちが
できるよりもさらに多くをやらなければ
いけ
ないのです。なぜなら、キリストがもう
やって来るから。イエスがやって来
られるときにやろうとすることがあ
るとするなら、今日、それをしな
ければ
ならないのです。そして、キリストが
事実再びやって来るその日までそれ
を止めてはいけ
ないのです。たとえ、それが何であ
ったとしても私たちはそれをさら
にや
らないといけ
ないのです。それがここで言っている
ことの意味です。

マッカーサ先生はこんなことを言
います。「多くのクリスチャンたち
に何とすばらしいことばをパウロ
は告げているのでしょ
う。一生懸命働き、一生懸命仕え、一
所懸命苦しんでいるその人たち
に対して。彼らの働きがどれ程小
さな働きであったとしても。い
ったい、私たちはどうしてわず
かなことで満足することができ
るのでしょ
う？この世の小さな事柄に満足
してしまうなんて。」と。彼は言
います。「どうして私たちは楽に
することなどできるのでしょ
う。私たちの周りにいる人たちが
霊的に死んだ状態であるにも
関わらず。彼らには励ましが必
要で福音が必要であるにも
関わらず。いったい、どのクリ
スチャンが言うことができる
のでしょ
う？『私は十分私の務めを果
たした。私の務めは十分や
りました。だから、他の人
たちにその働きをさせま
しょう』と。」

今こそが神の働きをもっとや
るときな
のです。だから、58節でパウロ
は言
います。「**あなたがたは自分
たちの労苦が、主にあってむ
だでないことを知っているの
ですから。**」と。皆さん、ど
んなに小さな働きであ
ったと
しても、どうでもいいこと
のように見えることであ
っても、もし、主にあって
それがなされるのなら、それは
無駄な働きではないのです。この
「**むだ**」というのは、空っぽ、何
にもないという
意味です。キリストがやって
来られるときに、キリストは私
たちのために報酬をもって
来られるのです。私たちの
王国のための働きのために
キリストは奉仕をし、それを私
たちに与えてくれるのです。この
「**労苦**」ということばですが、
これはものすごく大変な働
きという
意味です。疲れ果てて倒れて
しまう程の働きです。これが、
私たちがキリストに仕える仕
え方です。私たちの心すべて、
私たちの力すべて、私たちの
思いすべてを
尽くして。これらすべてのこと
のゆえに、私たちはまず期待
をし続けなければいけ
ません。私たちはキリストの再
臨を待ち望まないといけ
ないのです。私たちは空を見
上げ続けなければいけ
ません。上を見続けなければ
いけ
ません。なぜなら、私たちのあ
がない日は近いから
です。

ですから、私たちは励まされ
なければ
なりません。最善はこれから
やって来るのです。この世界
はまだ一時的な
ものです。私たちは今、取り
残されたわずかな者か
もしれませんが、キリストは私
たちのた

めにやって来てくださっているのです。そして、私たちは天に上げられて主に会う日が来るのです。そこには、何千、何百、何億というクリスチャンの人たちとともにいる日がやって来るのです。それから私たちはキリストの働きのゆえに励まされていなければいけません。そして、最後に私たちは熱心でなければいけません。この真理というものは私たちの心を燃やさないといけないのです。私たちのたましいを燃えたぎらせないといけないのです。この真理というものは私たちの心をものすごく励まして行かなければなりません。なぜなら、キリストはあなたのためにやって来られるからです。クリスチャンのあるひとりの男性が道に立っていたそうです。その横に未信者の人が立っていました、車はその横を走って行ったのです。その車の後ろにステッカーが貼ってありました。そこには「マラナサ」と書いてありました。未信者がクリスチャンに質問しました。これはどんな意味ですか？クリスチャンがその人に言ったのは「マラナサというのは、主がやって来られるという意味です。」と。未信者は「ああ、私はそのことを信じません。」と言いました。クリスチャンはその時に「なぜなら、キリストはあなたのためにやって来ないからですよ。」と答えました。

私は皆さんに聞きたいのです。イエスはあなたのためにやって来られますか？イエスがラッパの音とともにやって来られるとき、私は是非キリストのうちに見つけられたいと思います。キリストの義によってのみ着飾られて、神の御座の前に傷のない者として見出され、キリストというすばらしい堅い岩の上に立って、それ以外の地は全て沈んでいく砂のようなものだからです。

皆さんは、イエス・キリストを知っていますか？ 単にキリストについて知っているだけでなく、あなたはキリストを知っておられますか？ 皆さんはキリストに罪を告白しましたか？ あなたは自分の罪を悔い改めましたか？ 自分の人生をキリストに明け渡しましたか？ あなたは自分の心すべてでイエスを信じましたか？ キリストを私の主と告白しましたか？ 神が彼を復活させたと思いますか？ すべてキリストを信じる者はキリストのうちにあつて主の前に天において復活させられるのです。そして、すべての未信者は取り残されます。非常に大きな患難を通して。この瞬間にキリストを信じてくださるようになります。もし、皆さんが救われているならば、どうぞ、常にキリストの働きに満ちあふれているように。どうぞ、皆さんの先生の所に行って、もっと私に働きをくださいと言ってください。皆さんがこの大阪にあつてキリストのために働きを為してください。私ができる限り多くの人たちをキリストとともに天に連れて行くことができるように。私ができることを私はしなければなりません。私がしなければならぬことは、私はキリストの恵みによって必ず為します。皆さんに神の祝福がありますように。

祈りましょう、神様、あなたがあなたの御子を私たちのために再び遣わしてくださることを感謝します。私たちは確かに最後の日に生きています。どうぞ、私たちがキリストの再臨のときに準備ができている者と認めてくださるようになります。どうぞ、この教会がこの世界にあつて灯台となるように。そして、ここにいるクリスチャンたちを用いてください。どうぞ、彼らが堅く立って動かされることがないように。主の働きにおいてそれがなされるように。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。